

令和6年度 第3回 佐世保市上下水道事業経営検討委員会 議事要旨

日時：令和7年2月14日（金） 13時15分～15時50分

場所：市役所4F第4委員会室

出席委員 6名（3名欠席）

議題：①「前回の審議事項」及び「1 今回の主な審議事項」から「4 新技術の活用、コスト削減」

②「5 代替立案可能性 ①石木ダム以外のダム建設から④ダム再開発」

③「5 代替立案可能性 ⑤他用途ダムの容量買い上げから⑩海水淡水化」

④「5 代替立案可能性 ⑪既得水利の合理化・転用から水源林の保全」及び「代替案立案可能性（小括）」

⑤「6 費用の投資効果（費用対便益比分析）」から「9 対応方針（事務局提案）」

議事要旨

①「前回の審議事項」及び「1 今回の主な審議事項」から「4 新技術の活用、コスト削減」

○前回審議事項「行政区域内人口（給水人口）の推計」（令和6年度第2回資料1 P8 「6 佐世保地区の水需要予測 （1）生活用水（有収水量）の推計」）について、行政区域内人口の推計は令和25年度で21万人とされていた。社人研（国立社会保障・人口問題研究所）はそれよりも少ないが、推計値は妥当な数字なのか？

⇒事務局回答：行政計画として作成しています。水道施設設計指針に基づき上位計画（市総合計画）との整合をとりながら、市政策を下支える分野別計画（水道事業の計画）としています。社人研の推計は今の状態がそのまま継続すると想定した場合のものであり、自治体の（今後の）政策効果が発揮されない場合のものです。

②～④「5 代替案立案可能性 ①石木ダム以外のダム建設から⑪既得水利の合理化・転用から水源林の保全」及び「代替案立案可能性（小括）」

○現在、埼玉県八潮市の下水道管破損に伴う陥没事故が社会問題となっている。佐世保市のダムは耐用年数を過ぎているが、事故は起きないのか？また、耐用年数を過ぎて使用している状況は、類を見ないものであり、佐世保市しかないのではないのか？事故が起ってからでは遅い。どう対応しているのか？

⇒事務局回答：他の事業体の状況について把握はしていませんが、耐用年数を過ぎて使用し続けている状況は、あまり聞いたことがありません。ダムのリスクについては把

握しており、ダムの堤体のモニタリング等を実施していますが、今のところ、異常の兆候は見られません。当局としては、ダム本体よりも内部の取水設備を問題視しており、取水設備が使えなくなった場合、給配水ができなくなるリスクがあるため、差し迫った課題と認識しています。この点については、早く、安全に老朽化対策を実施できるような環境を整えるため、水源を確保したいと思っています。

○これまでに10回の工期延長を行ってきているとのことであるが、それに伴い、再評価の審議も何度も繰り返している。繰り返し行っている再評価の審議では、毎回、同じことを審議しており、今回の再評価も同じである。どこかのタイミングで、何か違うアクションを起こさないと変わらないのではないのか？

⇒事務局回答：答申後の対応と考えられますので、ご意見を真摯に受け止め対処したいと思います。

⑤「6 費用の投資効果（費用対便益比分析）」から「9 対応方針（事務局提案）」

○事業費135億円の増額の要因は何なのか？増加額の程度としては、見積もりが誤っていたというレベルのものであり、これほど増加するのはおかしいのではないのか？事業主体の長崎県から説明があったと思われるが、長崎県の説明で納得できるのか？

⇒事務局回答：長崎県からは、事業の進捗に伴い新たな調査が必要になったことのほか、働き方改革、リスク対策などのコスト増によるものと報告を受けています。今回の再評価は、この増額について、費用対便益比等を通じて受け止めていけるかどうかの立場での評価となります。

（総括意見）

- ・現在社会問題となっている埼玉県八潮市の下水道管破損に伴う陥没事故の事例をみても、耐用年数を過ぎた施設を使い続けることはできない。早急な対応が求められる。

- ・これまでに、工期延長を繰り返し、再評価の審議も何度も行っている。その間の50年で施設が老朽化し、施設が耐用年数を過ぎている状況では、もう限界である。その負担を負うのは市民であり、リスクも高まる。令和14年度完成はもう待てないような状況であり、もし完成しなければ、不足水量4万トンを県の責任において確保してもらうように要望をするべきである。

- ・それぞれの施設（ダム）は耐用年数も過ぎており古い。早急に対応しないと困るのは市民である。何かしらの対策でもっと強く行動を打つべきである。早めに対応すべき問題である。

- ・石木ダムを完成させて、水源不足を解消し、相浦工業団地などに企業誘致を進めてもらい

若い人が佐世保に残るような環境を整え、一人でも多く佐世保市に住んでもらい、もっとも
っといいまちになってもらいたい。

・石木ダム以外に（手段が）ないことは、検証のうえでこの結果を受け止める。135億円の増額のうち水道事業会計負担の8億円は、少なからず水道料金に反映される。佐世保市には大きな産業もなく、生活に困っている方もいる。事業費は必要最小限となるよう、県とも交渉していただきたい。

・様々な検討をした上での石木ダムとなっている。元々、長崎県全体が水不足であった。長崎県全体の問題でもある。代替可能性として、期待できると思っていた海水淡水化は、費用が何倍にもなり、市民が耐えられない。石木ダムを造っていくべきである。

・費用対便益比の数字をみても十分な数字であるにもかかわらず、事業認定から50年近く経っても完成していない。費用対便益比についての評価は妥当であるが、工期延長、再評価を繰り返し、それでも石木ダムが完成していないのは、「やる気と覚悟」が抜けているからである。石木ダム建設事業50年の間には、川棚町民の分断が生じ、大変だったと聞いている。事業評価としては、妥当であるが、次の工期延長は許容しがたいので、「やる気と覚悟」を持ってやってもらいたい。

（以上）